

オプションマーケット

銘柄の拡大すすむ

—OTM 中心に活況

日経225オプション取引は、8月に入るとともに取引高が著増し、8月26日にはブット、コール合わせて96,749単位と開設初日に次ぐ取引高を記録した。この間、8月10日に8月限が取引最終日を迎え、また現物指数の上昇を受けて、8月17日に権利行使価格36,000円が追加設定された。

著増した取引高

月間の取引高の推移をみると、月初から8月限の取引最終日である10日まではブット、コール合わせて50,000単位弱と横ばい状態であったが、中旬以降は、ブット、コール共ややアウト・オブ・ザ・マネーの銘柄を中心に取引高が膨らみ、月末にかけては両者合わせて90,000単位を超える日も出るなど活況を呈した。なお、ブット；コールの売買高比率は下表の通りでありコールがブットを上まわっている。

ブット；コール取引高比率

	ブット		コール		合計
	比率	比率	比率	比率	
6月	479,828	48.7%	504,882	51.3%	984,710
7月	355,033	44.5%	443,148	55.5%	798,181
8月	655,790	44.2%	829,115	55.8%	1,484,905
6~8計	1,490,651	45.6%	1,777,145	54.4%	3,267,796

高い9月限の取引高比率

8月の現物指数は34,500円~35,500円のボックス圏にあったことからブットは8月限34,500円、9月限34,500円、35,000円に、コールは8月限35,000円、9月限35,500円に取引が集中したが、月末にかけて現物指数の下降とともに35,000円へと移行した。

銘柄別の集中状況は下表のとおりであり、限月別では8月限、9月限の当限に取引が集中しているが、前月の7月限、8月限の比率に比べると、9月限の比率が高くなっているのが目につく。

銘柄別では月ともに取引される銘柄が拡大しており、ブット、コール共、ややアウト・オブ・ザ・マネーの銘柄を中心に月間で取引高が50,000単位を超えた銘柄が12銘柄を数えた。

なお、8月限から9月限への移行は、ブット、コール共取引最終日の8月10日であった。

取引高の集中状況

限月別

	限月	取引高	合計比
ブット	9月限	518,032 ^{単位}	78.99%
	8月限	135,895	20.72
	10・11月限	1,863	0.28
コール	9月限	640,269	77.22
	8月限	187,983	22.67
	10・11月限	863	0.10

銘柄別

	銘柄	取引高	合計比
ブット	1年9月限 34,500円	204,161 ^{単位}	42.23%
	1年9月限 35,000円	176,233	36.45
	1年9月限 34,000円	103,106	21.32
コール	1年9月限 35,500円	221,771	40.68
	1年9月限 35,000円	215,183	39.47
	1年8月限 35,000円	108,175	19.84

後半増加したコールの建玉残高

建玉残高の状況はブットが3,700~11,800台、コールが4,800~15,200台で推移したが、現物指数の動きを反映して、前半はブット、後半はコールの建玉の増加が目立った。

増加した権利行使

8月の権利行使の状況は、8頁の表のとおりであるが、7月に比べ大幅に申告数量が増加した。また現物指数の推移から、前半はコール、後半はブットの権利行使が多かった。なお、8月限取引最終日の権利行使はすべて自動権利行使であった。

(A.G.)

権利行使の状況

権利行使日	ブット	数量	コール	数量
8.3	8月限 35,500	152	8月限 33,000	20
			8月限 33,500	18
			8月限 34,000	14
8.10	8月限 35,000 8月限 35,500	550 249	8月限 32,500	2
			8月限 33,000	207
			8月限 33,500	965
			8月限 34,000	770
			8月限 34,500	1,494
8.17	9月限 36,000	15		
8.24	9月限 35,500 9月限 36,000 10月限 35,500	144 309 5		
8.31	9月限 35,000 9月限 35,500 9月限 36,000 10月限 35,500	259 82 25 5	9月限 33,500	5